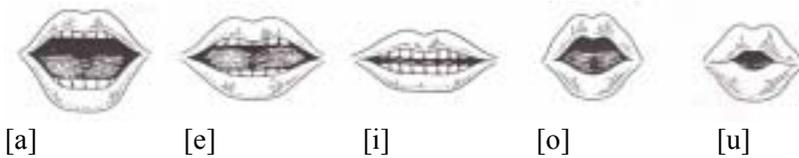


スペイン語ガイドブック

文字と発音 母音と子音

5つの母音

[a], [e], [i], [o], [u] という5つの母音がある。母音は「あ」のように口を開けて発音する音である。舌や唇を接触させたり、強く摩擦を起こしたりしないで自然に発音する。それぞれの発音の口の形は次のようになる。



i と u は閉母音,そして e, a, o は開母音と分類される。この分類は,次の二重母音と三重母音を理解するときに必要なになる。

閉母音	i	u
開母音	e	o
	a	

母音は前母音 (i, e) と中母音 (a), 後母音 (o, u) に分類される。この分類は一部の子音文字の読み方に関係する。母音は音節の中心になる。

とくに注意すべき母音の発音

二重母音

三重母音

母音は3つ連続することがある。それが閉母音 + 開母音 + 閉母音のように組み合わせると三重母音になる。

es-tu-diáis 「君たちは勉強する」, Pa-ra-guay 「パラグアイ」.

音節の途中で切らないで1つの母音として扱う。

三重母音に強勢があるときは開母音が強く発音される。

閉母音が強く発音されると三重母音でなくなり分立母音となる。

i で終わる三重母音が語尾であるとき, i は y で書かれる。

Paraguay 「パラグアイ」.

* これに対して estudiáis のように語中にあるときは i で書かれる。

分立母音

開母音が二つ連続すると分立母音となる。

ba-ca-la-o 「〔魚〕タラ」, o-a-sis 「オアシス」, eu-ro-pe-o 「ヨーロッパの」, ta-re-a 「仕事」.

開母音と閉母音の組み合わせで閉母音に強勢(アクセント符号)があれば分立する.

(1) 開母音 + 強勢閉母音

pa-ís 「国」, ba-úl 「スーツケース」, o-í-do 「聴覚」.

(2) 強勢閉母音 + 開母音

dí-a 「日」, tí-o 「叔父」, e-co-no-mí-a 「経済」.

* これらは2つの母音として扱われ、そこで音節が分かれる.

siin.doc // B5 // H.Ueda // ver.2002/10/10

子音とは？

子音は唇や歯や舌が接触したり、強く狭めて出す音である。子音の文字には ch のように発音が1つだけのものと、c や g のようにいくつか異なる発音をもつものがある。

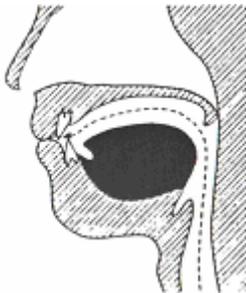
b の発音

常に [b] の音になる。唇を閉じた閉鎖音と少しだけ開いた摩擦音がある。発音の初めと、語中の m や(前にある語の)語末の n の後では日本語の「バ」行の子音と同じ唇を閉じた閉鎖音になる。

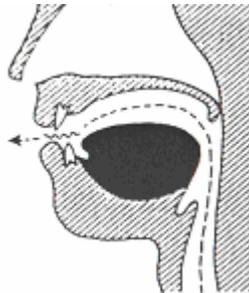
Bolivia 「ボリビア」, Colombia 「コロンビア」, un banco 「銀行」.

それ以外は摩擦音となる。

Cuba 「キューバ」, las botas 「長靴」.



【図-2】 [b]



【図-3】 [β]

c の発音

[] と [k] の発音がある。[] は舌先を上歯と下歯の間に入れて発音する摩擦音。c の後ろに i または e があるときこの発音になる。

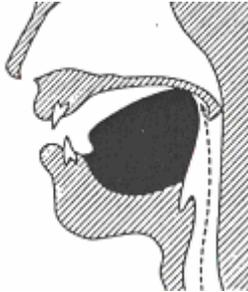
Francia 「フランス」, Concepción 「コンセプション(チリの都市)」.

* スペインの南部とラテンアメリカ諸国では [] ではなく、日本語の「サ」行の子音と同じ [s] となる。

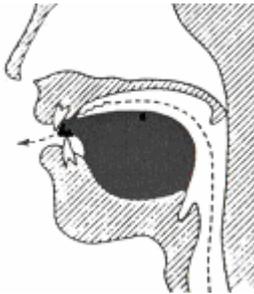
* スペイン中北部の [] の発音は英語の think の th よりずっと強い。

スペイン語の cinco「5」は強く「シンコ」と聞こえるが、それに比べると英語の think の摩擦は弱くときに「ティンク」のように聞こえる。
 その他はすべて日本語の「カ」行の子音と同じ[k]となる。

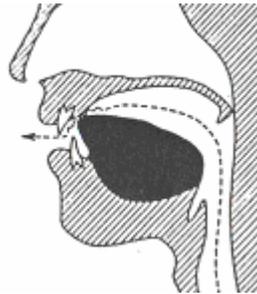
Cataluña「カタルニア(スペインの自治州)」, Ucrania「ウクライナ」。



【図-4】 [k]



【図-5】 [t]



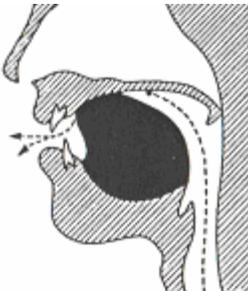
【図-6】 [s]

ch の発音

文字 ch は日本語の「チャ」行の子音と同じである。音声表記は[tʃ]。

Chile「チリ」, noche「夜」。

英語の[tʃ]は唇が丸まって少し暗い音になるが(例: 'church'), スペイン語はこのような音にはならない。



【図-7】 [t]

d の発音

[d]の音になる。詳しく見ると、舌先を上歯の裏につける日本語の「ダ」「デ」「ド」の子音と同じ閉鎖音と舌先を少し離して発音する摩擦音がある。発音の初めと語中や語末の l や n の後では閉鎖音となる。

Dinamarca 「デンマーク」, India 「インド」, toldo 「テント」.

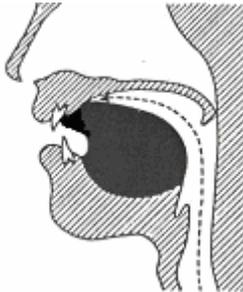
それ以外は摩擦音となる。

Canadá 「カナダ」, la dama 「婦人」.

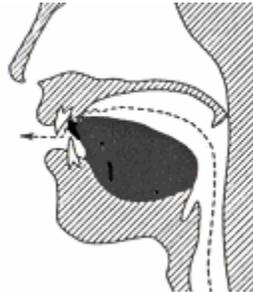
* 語末の d は弱く発音される。

usted [uste(d)] 「あなた」, Madrid [madri(d)] 「マドリード」.

* 語末の d はマドリードなどでは z [] のように発音されることがある。



【図-8】 [d]



【図-9】 [ð]

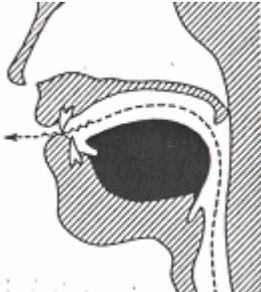
f の発音

上の歯が下の唇に軽く触れて、息を強く通して発音する摩擦音である。

Filipinas 「フィリピン」, oficina 「オフィス」.

* 英語にもある音である(例: 'father'). 日本語の「フ」(「布団」)は唇を丸めて上下の唇の間から息が漏れるだけの音である。

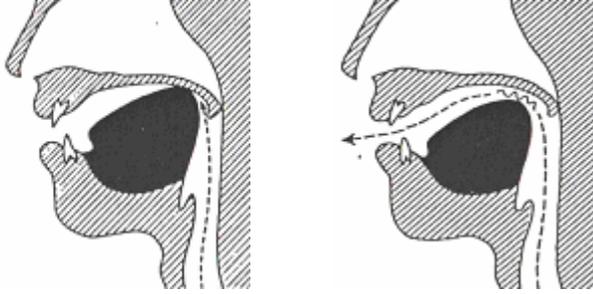
* スペイン語や英語の [f] の摩擦はそれよりもずっと強い。



【図-10】 [f]

g の発音

文字 g には [x] と [g] という2つのまったく違う音がある。[x] は ge, gi のように次に母音 e と i があるときに発音される。舌の後ろの部分と軟口蓋を近づけて息を強く出す摩擦音である。[k] の位置と同じなので、「クフー」というようにこれを少し緩め続けて発音するとこの摩擦音が出る。



【図-11】 [g] 【図-12】 [x]

Argentina [arxentina] 「アルゼンチン」, Bélgica [bélxika] 「ベルギー」, その他はすべて日本語の「ガ」行の子音と同じ [g] の発音になる。

この [g] には閉鎖音と摩擦音という二つのバリエーションがある。

閉鎖音は日本語の閉鎖音「ガ」行の子音である。

発音の初めと語中や語末の n の後では閉鎖音となる。

Guatemala [gwaatemala] 「グアテマラ」, Hungría [ungría] 「ハンガリー」, その他は摩擦音 [x] になる。

Santiago [santiágo] 「サンティアゴ」。

* [x] は強い摩擦音でスペインの中北部で発音される。

hijo [íxo] 「息子」。

* 一方、スペイン南部やラテンアメリカでは日本語の「ハ」行の子音と同じ [h] である。

g の文字が i と e の前にあるとき、この発音となる。

Argentina [arxentina] 「アルゼンチン」。

* スペイン語の [x] はとても強い摩擦音であるが、日本語の「ハ」行の子音はもっとやわらかい氣息音である。

スペインの南部やラテンアメリカでは、このやわらかい氣息音が使われているので、そちらの地方のスペイン語を学びたい人は日本語の「ハ」行の音を使ってもよい。

* * 日本語のやわらかい鼻に抜けた「ガ」行の子音を使わないように注意しよう。

h の発音

常に無音、つまり発音されない。* なぜ発音されないのに書かれるのか？ 数百年も前に発音されていた音が現代では消えてしまい文字だけが伝統的に残されたからである。英語ではこの音を保持している。Honduras は英語読みでは「ホンジュラス」であるが、スペイン語では「オンドゥラス」となる。

* 母音の分立や音節の切り方に注意がいる。

j の発音

常に摩擦音 [x] となる。

Japón [xapón]「日本」。

k の発音

常に[k]という閉鎖音になる。

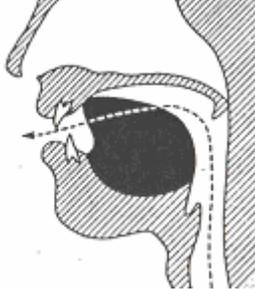
この文字は外来語にしか用いられない。

Tokio [tókio]「東京」。

l の発音

舌尖を歯茎につけた「ル」という音になる。

Lima [líma]「リマ(ペルーの首都)」。



【図-13】 [l]

ll の発音

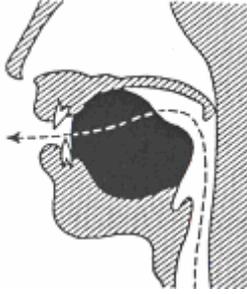
発音は [y] である。

Sevilla [seβiya]「セビリア」。

* [y] は日本人には「ヤ」や「ジャ」に聞こえる。どちらもスペイン語圏の人々には同じ音と見なされる。

日本語の「ジャ」は完全な摩擦音または破擦音なので、舌尖が上の歯茎の裏に近づき、接触することもある。一方、スペイン語の[y]の発音では舌尖は舌の歯茎の裏について、前舌面が硬口蓋に近づく。聞こえ方も微妙に違う。

* この発音は微妙で、各地にバリエーションがある。大きく「エリエ」、「エイエ」、「エジェ」の3種の発音があるが、その中で「エリエ」は伝統的な発音。現在ではスペインの北部や南米のペルーなどに残っている。舌の前の部分を上の硬口蓋にくっつけて側面から息を通過させる音である。「エイエ」のほうが広い地域で聞かれる音で、これは強く発音されると「エジェ」となる。どちらにしても舌尖は舌の歯の後ろに置いて、前舌部分を持ち上げるようにして発音する。



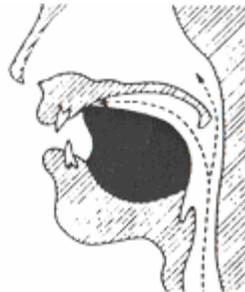
【図-14】 [Λ]

- * 日本語の「ジャ」は、舌先が上に向かうのでスペイン語の「エジェ」と比べてとても強い音になる。
- * 地域によっては「エイエ」よりも「エジェ」のほうが優勢なところもある。

m の発音



【図-15】 [m]



【図-16】 [n]

日本語の「マ」行の子音と同じである。

Panamá [panamá] 「パナマ」。

- * p と b の前の鼻子音は m で書く。
- * campo 「田舎」, noviembre 「11 月」。

n の発音

日本語の「ナ」行の子音と同じである。

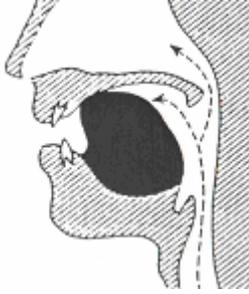
Manila [manila] 「マニラ」。

- * m と v の前の鼻子音は n で書く。
- conversar 「会話する」, invierno 「冬」。
- * 英語では m の前で m と書くが(例: immediately), スペイン語では n で書くので注意 (inmediatamente 「直ちに」)。

ñ の発音

日本語の「ニャ、ニュ、ニョ」の子音と同じである。

España [españa] 「スペイン」。



【図-17】 [ɲ]

p の発音

日本語の「パ」行の子音と同じである。

La Paz [lapá]「ラパス」。

* ps-ではじまる語の p は発音しない。

psicología「心理学」, psicólogo「心理学者」。

* 語中の-pt-は p が発音されないこともある。

* septiembre - setiembre「9月」, séptimo - sétimo「7番目の」。

qu の発音

qu は次に e または i の母音を従えて、それぞれ、que「ケ」[ke] または qui「キ」[ki] という発音になる。

* スペイン語の [k] は英語ほど強くはない。

* Quito「キト(エクアドルの首都)」は「キト」のように発音すればよいが、英語の場合は[k]の後で息がもれるくらいに強く発音する。kit は「キヒット」[khit]と聞こえるくらいだ。これをスペイン語に持ち込まないようにしよう。

r の発音

語頭では語中の rr と同じように震(ふる)え音となる。語中の r は弾(はじ)き音である。

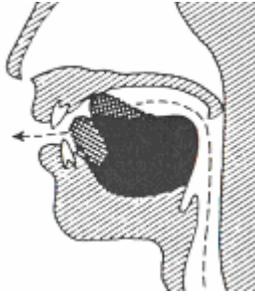
Perú [perú]「ペルー」。

* 語頭だけでなく語中で l, n, s の後にあるときも震(ふる)え音となる。語数は少ない。

alrededor「回りに」, sonrisa「微笑」, Israel「イスラエル」。

* [l] と [r] の比較。どちらもカタカナで書けば「エレ」になるので、日本人には区別が難しい。[l] の発音では舌先を上歯の裏にしっかりとつけて、舌の両側から息を出しながら「ルー」という音を出す。[r] は舌先を軽く上の歯の裏にぶつけて「ル」という。r は語頭では[rr]の発音となるが、語中では次のように l と r の違いによって語が区別される。

* hola「やあ(挨拶)」, hora「時間」, pelo「髪の毛」, pero「しかし(接続詞)」。



【図-18】 [r]

rr の発音

語頭の r と語中の rr は震(ふる)え音である。

Roma [rróma]「ローマ」, Marruecos [marruékos]「モロッコ」.

* 練習方法. rr が単語の中に出てきたときには、「ルルル」というように舌先を震わせる音になる。また, r で始まる単語でも同じ。「バラ」は rosa「ロサ」というが, この「ロ」の発音では舌先を数回震わさなければならない。

* この発音ができない人のために 3 つの練習方法を説明しよう。

(1) 1 つは b や d をつけて brrr... とか drrr... と言いながら, 一気に舌先を震わせる方法である。

(2) r を何度も繰り返して, r, r, r, ...と言いながら, 息を強く出し, とぎれないように発音する。

(3) 舌先を上を巻き込んでそれを強制的に前にはじかせながら震わせる。

* いずれにしても, 舌先は力を入れすぎないように。あくまで息の気流で舌が自然にはためくように震えさせるとよい。

s の発音

日本語の「サ」行の子音とほとんど同じである。

Suecia [sué ia]「スエーデン」.

* スペインの中北部では舌先を硬口蓋に向けて発音される強い摩擦音となる。「シュ」のように聞こえる。

* スペイン南部やラテンアメリカでは日本語の「サ」行の音と同じである。

* 有声子音の前では有声化して [z] のように発音されることもある。

desde「...から」, mismo「同じ」.

* r の前では消えやすい。

Israel [i(s)rraél]「イスラエル」

!Más rápido! [más(s)rrápido] // もっと早く! rápido「早い」.

t の発音

日本語の「タ」「テ」「ト」の子音と同じである。

Italia [itália]「イタリア」.

* ti は [ti] 「ティ」であって [t] 「チ」とはならない。
Haití [aití] 「ハイチ」.

v の発音

b の文字と同じである.

violín 「バイオリン」, Valencia [balén ia] 「バレンシア」.

* *v は b とまったく同じ発音だが, 伝統的な綴り字が残ったために現代でもこの文字が使われている.

w の発音

外来語にしか用いられない。「ワ」の音か, それが強められて「バ」行の子音 [b] になったりする。「グァ」のように聞こえることもある.

Washington [wásinton] 「ワシントン」.

Washington は英語なので, とくにスペイン語の中で使われるときも原則的にアクセント符号はつけない. 新聞などでまれに Wáshington のように強勢がつけられていることもある.

x の発音

x は基本的に [ks] と発音される

examen [eksámen] 「試験」.

c, t, p という子音の前では [s] と発音されるのが普通である.

Extremadura [estremadúra] 「エストレマドゥーラ(スペインの自治州)」.

* 子音の前でも丁寧に発音されたときは [ks] となる.

Extremadura [ekstremadúra]

* メキシコの地名などには [h] と発音されるものがある.

México [méhiko] 「メキシコ」, Oaxaca [oaháka] 「オアハカ」, Texas [téhas] 「テキサス」.

* México 「メキシコ」, mexicano 「メキシコの」はスペインでは Méjico, mejicano と書かれるが, 最近の新聞では x が多く用いられている. Oaxaca 「オアハカ(メキシコ南部の州)」, oaxaqueño 「オアハカの」は常に x が用いられる. また [s] で発音される地名や固有名もある.

Xochimilco [sot imilko] 「ソチミルコ」.

* 語頭の x は [s] と発音する.

xilófono [silófono] 「木琴」, xenofobia [senofóbia] 「外国人嫌い」.

y の発音

ll と同じ発音 [y] になる.

Yucatán [yukatán] 「(地名) ユカタン(メキシコ南部の半島)」.

* ただし, 「リャ」行の子音にはならない.

* 語末では二重母音の一部の [i] がこの文字で書かれる

hoy 「今日」, Paraguay 「パラグアイ」.

z の発音

発音は[θ]である。

Venezuela [beneθuéla]「ベネズエラ」。

* スペインの南部やラテンアメリカでは日本語の「サ」行の子音と同じ[s]となる。

* 有声の [z] 「ザ」行の音にならない。

Venezuela は日本語では「ベネズエラ」と言うが、スペイン語では[ベネスエラ]となる。

* 有声子音の前で [ð, z] のように聞こえることもある。

Hazlo [áðlo] // それをしなさい。

語末の子音

スペイン語の語末にある子音には d, l, n, r, s, y, z がある。

これらの中で d は非常に弱く発音され、ほとんど聞こえないことがある。

Madrid [madrɪ(d)]「マドリッド」、usted [uste(d)]「あなた」。

* 他にも c, g, j などまれに語末に見られるが、これらの子音も非常に弱く発音される。

coñac「コニャック」、zigzag「ジグザグ」、reloj「時計」。

* それらに比べて、l, n, r, s, y, z は比較的安定しているが、それでもスペインの南部やラテンアメリカの地域によっては、弱く発音されて聞こえなくなることもある。

sol「太陽」、Japón「日本」、señor「男性」、rey「王」、paz「平和」。

単語と単語のつながり

La Habana のように語末と語頭で同じ母音が続くと連続して発音される。

「ラ・アバーナ」というより「ラバーナ」という感じである。また、Buenos Aires のように語末の子音 (s) と語頭の母音 (a) が隣合わせになると連続して発音される。「ブエノス・アイレス」というより「ブエノサイレス」と発音される。

二重子音

p, t, c, b, d, g, f のいずれかと l または r が組合わさると二重子音ができる。ただし, tl と dl は存在しない。

p	t	c	+	l r
b	d	g		
f				

pl, pr. tri-ple「三重の」、com-pra「買い物」、siem-pre「いつも」。

bl, br. do-ble「二重の」、re-pú-bli-ca「共和国」、li-bro「本」。

fl, fr. in-fluen-cia「影響」, Á-fri-ca「アフリカ」, su-frir「悩む」.
 cl, cr. an-cla「錨」, in-cluir「含める」, es-cri-bir「書く」.
 gl, gr. In-gla-te-rra「イングランド」, si-glo「世紀」, ne-gro「黒」.
 tr. cua-tro「4」, pa-tria「祖国」.
 dr. Ma-drid「マドリッド」, pa-dre「父」.

*これらの二重子音は1つの子音として扱い、音節の切れ目はその前になる。二重子音の間で切ってはいけない。

*tl と dl は二重子音にならない。

at-las「地図帳」, At-lán-tico「大西洋」, ad-lá-te-re「側近」.

*メキシコの地名や固有物の名前に-tlが多く存在する。メキシコ人はナウアトル語起源のixtle「植物リュウゼツラン」もスペイン語本来のatlasもそれぞれ、ix-tle, a-tlasのようにtlを連続した破裂音とする。

綴り字の規則

スペイン語の単語の発音の仕方は非常に単純で規則的である。原則として文字は一通りの発音しかないのだが、一部分、文字と発音の関係が規則的にずれているところがある。それを次の表で確認しよう。このとき前母音と中・後母音の区別が役立つ。

発音	次の母音					語末
	i	e	A	o	u	
[θ]	ci	ce	za	zo	zu	z
[k]	qui	Que	ca	co	cu	c
[x]	gi (ji)	ge (je)	Ja	jo	ju	(j)
[g]	gui	Gue	ga	go	gu	(g)
[gw]	güi	Güe	gua	guo		

たとえば、[θ]という発音にはcとzの文字が対応する。cが書かれるのは次にiまたはeという文字があるときで、それ以外はzで書かれる。語末でもzとなる。この規則 ([θ]=c~z)を知っておくと、名詞や形容詞の複数形や、動詞の活用形の練習をするときに暗記することが少なくてすむ。同じことが [k]=gu~c, [x]=g~j, [g]=gu~g, [gw]=gü~guについても言える。こうしたケースに出会ったときにもう一度この表を参照しよう。(なお、上の表の括弧の中の文字は、こうした対応は示さないが、同じ発音をする文字である。)

* z で終わる語はかなりの数がある。名詞や形容詞が多いが、その複数形は綴り字の規則に従って -ces となる。

juez「裁判官」: jueces「裁判官(裁判官)」, pez「魚」: peces「魚(複数)」:
Feliz Navidad「メリークリスマス」, niños felices「幸福な子供たち」。

* c で終わる語は少ない。

coñac「コニャック」, frac「燕尾服」, biftec「ビーフステーキ」, cómic「コミック」, zinc「亜鉛」, bloc「ブロック, はぎ取り式のノート」。

* zi, ze という連続も少数ながら存在する。これらには上で示した z-c の交替はない。

zinc「亜鉛」, zeta「z の文字」。

* ji, je という連続をもつ単語は多数ある。これらには上で示した j-g の交替はない。

ají「トウガラシ」, mujer「女性」。* j で終わる語として重要なのは reloj「時計」ぐらいである。

* g で終わる語は英語からの外来語が多い。

zigzag「ジグザグ」, pudding「プディング」, iceberg「冰山」。